ブリティッシュ・コロンビア大学に
東西を結ぶアジア・センター

カナダの西玄関ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーに、広々と、緑豊かな敷地を構えるブリティッシュ・コロンビア大学。アジア研究で世界的に有名なこの大学の構内に、新渡戸記念庭園に隣接して、カナダとアジアを結ぶ新しい計画――アジア・センター――が実現しつつある。来年春に完成が見込まれているこのセンターには、アジア関係蔵書を専門とする図書館のほか、研究室、会議室、劇場などが収容されることになっており、カナダ・アジア関係の発展に大きく寄与するものと期待されている。

アジア・センターの建設は各方面の協力のたまものだ。日本のサンヨー電機株式会社は、センター建設の提唱者飯田ショータロー博士（ブリティッシュ・コロンビア大学教授）の依頼で、一九七〇年大阪で開かれた万国博覧会に出展したサンヨー館の屋根を寄贈したし、また経団連が五十五万ドル、（一九七〇年）日本万国博覧会協会が二十五万ドルを寄付した。これに対応して、カナダ連邦政府とブリティッシュ・コロンビア州政府も、それぞれ四十万ドルの補助を与えている（連邦政府は、のちにカナダ外務省を通じて、五万ドル追加した）。建物の完成に必要な残り三百五十万ドルを集めるため、ジャーナル・オブ・コマース誌（バンクーバー）社長ジョセフ・ホワイトヘッド氏を委員長として、カナダの主要な実業家からなる委員会も結成された。同委員会の募金活動はカナダ国内に限らず、今秋には、アジアで百万ドル募金運動を計画している。ホワイトヘッド氏の言を借りれば、「将来アジア・センターが成功するかどうかは、太平洋両岸の諸政府や実業界の取組み方如何にかかっている。この建物はカナダ人だけのものではない。アジアの人たちにとっても、貴重かつ実用的なセンターになるだろう」からである。同氏は、すでに去年の初め、アジア・センター建設計画と募金運動の趣旨を説明するため、六週間にわたってアジア各国を訪問し、韓国、シンガポール、フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイ、香港などで同計画に対する高い関心を得ている。

現在建設半ばにあるアジア・センターは、外観はもとのサンヨー館に似ているものの、内部の設計や機能には画然とした相違がみられる。バンクーバーの建築家ドナルド・マツバ氏の設計によるこの全く新しい建物は、カナダ・アジア関係の有望性を象徴するだけでなく、真に実用に即した活動の場を提供するようにできている。

▲建設中のアジア・センター

建物の中核的存在は、アジア研究図書館。アジアの諸言語で書かれた十八万冊の書籍を蔵するこの図書館は、この種のものとしてはカナダ最大。カナダ政府の国立図書館と一定のアジア諸国との取りきめにより、同図書館はブリティッシュ・コロンビア大学が維持する。（取りきめに基づき、ブリティッシュ・コロンビア大学が国立交流センターおよびアジア関係重要図書保管所となっている。）

図書館施設としては、ほかに閲覧室、研究室、アジア研究家・学者用の事務所、セミナー・会議室、美術展示室、座席数二百の劇場などがおかれている。劇場は演劇、舞踊、演奏のほか、小規模の会議、自由討議、講演などにも利用できる。

アジア・センター完成後は、その活動のひとつとして、アジア諸国の文化、言語、美術、歴史、政治、経済に関する理解を必要とするカナダの実業家を対象とした管理職研修計画もそこで行われよう。こうしてつちかわれた知識は、カナダの実業家がアジアとの商取引を発展・拡大する上で大いに役立つだろう。センターでは、また、カナダを訪れるアジアの実業家のための研修を行うことも計画されている。

さらに、アジア・センターの施設は、現在大学構内各所で開かれているアジア問題に関する特別講座にも利用されよう。現代のアジア・カナダ研究と取組んでいる研究者は同センターを基地として研究調査に従事できる。その研究結果は実業界および政府にとって大いに役立つだろう。カナダ随一とされるブリティッシュ・コロンビア大学アジア研究学部は、このセンターの建物には入らないが、同学部の研究陣・学生にとって同センターが恒久的かつきわめて有用な施設になることは間違いない。またブリティッシュ・コロンビア大学に在籍するアジア出身の学生約千五百人も、アジア・センターに足しげく通うことになろう。

このほか、アジア・センターはブリティッシュ・コロンビア大学の美術、演劇、音楽の各学部、バンクーバー・アジア美術協会、およびカナダを訪れるアジアのプロデューサーや芸術家による劇、舞踊、音楽、絵画、彫刻、織物、陶芸など、アジアの諸芸の展示、上演、制作の場ともなる。

アジア・センターの利用価値はそれだけにとどまらない。ブリティッシュ・コロンビア大学は、敷地の西側一帯に一連の植物園を造成中で、完成するとバンクーバー名物のひとつとなることは間違いない。アジア・センターはこれらの植物園のひとつ、新渡戸記念庭園に隣接するほか、近辺には主としてアジアからの学生や教授、その他の職員の交流場所であるインターナショナル・ハウスや人類博物館があって、外来者にとっても興味深い施設となるだろう。